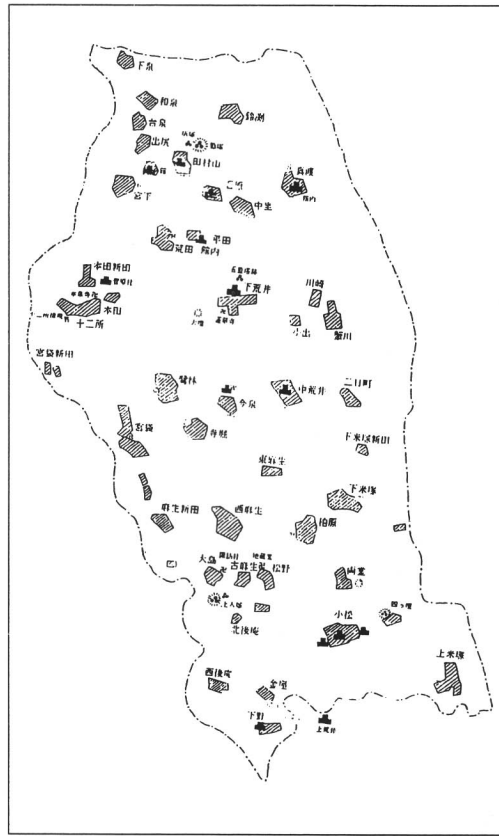


- 5 荒田村館
 - 6 真渡村館
 - 7 一盃館
 - 8 今和泉村館
 - 9 下野村館
- 次の図は城・館跡の分布図である。



文化6年書上げ 城、館跡分布図

四 板碑

北会津村大字二方甲（今和泉村）にある板碑は、石造供養塔婆または石仏供養碑とも呼ばれ、中世の供養塔の一つで、死者の冥福を祈るためや自分自身が死後の法事を営む、いわゆる逆修のため建てられたものである。材質は安山岩で高さ約百十程である。昭和六十二年に村の文化財に指定された。次の図は板碑の全景である。

五 蓮華寺草創

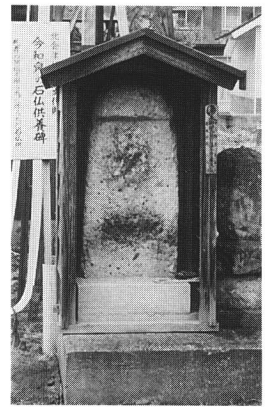
治承元年（一一七七）蓮華寺草創、開基の僧は不詳となっている（会津鑑）。しかし新編会津風土記によれば、康暦元年（一一三九）鎌倉雪下村の僧仁範が葦名直盛の勧めによって、会津郡下荒井村に真言宗松命山清浄院蓮華寺を建立したと記されている。さらに次のように記されている。

「仁範は高齢になってもなお願心やまず、高野に詣でて臨終を遂げようと思ひ、旅装をととのえ、杖にたすけられながら蟹川に來たところ、川端で釣りをしている一人の翁にいました。翁に仁範は『いづくに行くと問われたところ、仁範は宿願の由を語った。翁は。

高野山よそにはあらじ下荒井

三鉢の松の法の朝風

という歌を詠じて、その高野山行きを留めました。仁範は怪しんで『その松は何れにありや』と問うたところ、『その松は汝が寺の境内にあり、これより汝が寺を松命山清浄院蓮華寺と号すべし』、といてその姿を消しました。仁範は奇異の思いで寺に帰り、院内をくまなく探すとその松正しく三葉にして確かに三鉢の称にかなっておりますので、仁範はこの寺を終焉の地とすることに決め、修業につとめた結果寺運は興隆の一途をたどり、塔頭も六坊を数えるほどになりました。院内の三鉢の松も



板碑